



● 桐生織物協同組合 ●

◆本組合の起源は明治時代

本組合の歴史を遡ると、その誕生は明治11年の桐生会社に始まり、以来、法改正等に伴う組織変遷を経て、昭和62年、現在の協同組合組織となった。まさに、桐生の織物業の振興・発展を支え続ける組合である。

◆組合活動

積極的に行う組合事業のひとつが展示会の開催で、和装関連は、求評会・展示会を東京と京都で年5回開催。洋装関連は、フランスなどの海外展示会へ参加するとともに、毎年東京で国内見本市を開催している。

また、和装の求評会においては、

「和装織物新製品開発事業発表会」として、組合が公募して集まった約300点の公募デザインをもとに試作した作品の展示を併せて行うなど、次代を担う人材育成に向



展示会の様子



けた取り組みも行っている。

さらに、桐生市では11月3日を「きもの日」と定めており、同日、組合では「きもの ワインパーティー」を主催している。本イベントは、昨年28回目を迎えた恒例行事で毎回、着物を装った大勢の方々がワインを楽しむ姿が見受けられる。

◆織物産地をPR

平成24年、桐生織物記念館内に

「織物資料展示室」を開設し、組合で所有していた貴重な資料の常設展示や期限を設けた企画展示を開始した。年間約1万人の来場者を迎えるなど、街中の観光スポットとして定着し始めている。



桐生織物記念館

◆桐生織を国内外に発信

地域特産物等のブランド化を後押しする地域団体商標として「桐生織」を平成20年、組合が申請し登録され、ブランドの更なる価値向上を目指している。

こぼれ話

桐生市では8月、恒例の桐生八木節まつりが開催されている。この祭りのクライマックスのジャンボパレードに桐生織物協同組合で製作した「起龍（きりゅう）」という龍が出場する。「蒼龍・竜伍郎」と名付けられた2体の龍が、約140人によって道路を勇壮に駆け抜ける。龍は水の神様として各地で信仰されている。ただし、起龍は織物であるため、水は絶対に厳禁。

組合の概要

○所在地	桐生市永楽町5-1
○代表理事	後藤隆造
○出資金	6,424千円
○組合員数	123名
○主な事業	共同販売事業、共同宣伝・販売促進事業、研究開発事業
○成立年月日	昭和62年4月1日
○ホームページ	http://www.kiryuorimono.or.jp/

また、今年「織都桐生千三百年」と銘打ち、新作織物や歴史資料の展示、記念式典の開催を行い、桐生織を全国にアピールする準備を進めている。

さらに、ジャパンブランド育成支援事業に取り組み、昨年実施した米国市場調査の結果を基に、アメリカ・ニューヨーク向けの販路開拓を目的とした事業を行い、更なる産地活性化を目指している。